

※今月のみ受注の書目です。

歴史学

慶應義塾大学東アジア研究所叢書

パブリック・ヒストリーの実践

オルタナティブで多声的な歴史を紡ぐ

(2025 年 1 月下旬刊行予定)

笠井賢紀 (慶應義塾大学法学部准教授)・

田島英一 (慶應義塾大学総合政策学部教授) [編著]

A5 判上製 / 288 頁 税込予価 4,950 円 ISBN978-4-7664-3005-9 C3020

👉 ココに注目!

- ・従来のアカデミック・ヒストリーとは異なる歴史学の研究実践を紹介。
- ・パブリック・ヒストリーの学術的・社会的意義をまとめ、新たな視座を提供する。

従来の「アカデミック・ヒストリー」へのオルタナティブな方法論として登場した「パブリック・ヒストリー」。その理論的な枠組みを解説した上で、日本国内からアフリカまでさまざまな地域・時代にわたる研究実践を紹介。さらに方法論そのものを再検討する論文を収載することで、学問分野の新たな視座をひらく一冊。

対象 (歴史学を専攻する) 研究者、学生

類書 菅豊・北條勝貴編『パブリック・ヒストリー入門』(勉誠社)

【営業部からのおすすめポイント】

パブリック・ヒストリーは「一般市民が担う歴史」として、いわゆる歴史学を中心としたアカデミック・ヒストリーとは対立するものと捉えられがちですが、本書はむしろ相互補完的なものとして位置付けます。“もう一つの”歴史学の方法論を紹介する書籍として、ぜひ展開をお願いします。

(乙子)

👉 目次、注文書、関連既刊を裏面に掲載! ぜひご確認ください!

【目次】

はじめに

第Ⅰ部 パブリック・ヒストリーの理論

第1章 堆積するオルタナティブな歴史と記憶

第2章 歴史におけるふたつの「公」

第Ⅱ部 実践に埋め込まれた歴史

第3章 共鳴する親子ラジオ

——アメリカ統治下沖縄のラジオ放送が紡いだもう一つの歴史

第4章 ロシアの「チャストゥーシカ」と歴史実践

第5章 東日本大震災の災害伝承施設とパブリック・ヒストリー

——Google Maps レビューデータから紡がれる声

第Ⅲ部 語りづらさを超えて

第6章 何のためなら災禍をめぐる経験を語れるのか？

——映像制作を通して共に考える

第7章 「語らない」から「語りだす」へ

——満洲引揚者・土屋洸子の戦後経験に着目して

第Ⅳ部 誰が歴史を紡ぐのか

第8章 ひきこもりのパブリック・ヒストリーの可能性と不可能性

第9章 宗教的経験と「歴史」実践のあいだ

——セネガルのスーフィー教団を事例として

第10章 パブリック・ヒストリーからジェノサイドへ

——パレスチナ/イスラエルにまつわる歴史実践の相克

第Ⅴ部 歴史実践を生み出す

第11章 住み継ぐまちづくりに向けた「住まいの記憶史調査」の活用方策

第12章 四国遍路につつまれて

——自己の死と歴史実践としての蘇生

あとがき



ご注文は FAX で！ 03－3451－3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			笠井賢紀・田島英一 編著 慶應義塾大学東アジア研究所叢書 パブリック・ヒストリーの実践 ーオルタナティブで多声的な歴史を紡ぐ ISBN978-4-7664-3005-9 C3020	4,950 円	★★

★1つで「500部」を表します